

ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

May, 2018
No.34

支部・委員会活動報告特集

発行：映像メディア英語教育学会事務局
(旧映画英語教育学会)
住所：〒169-0075
東京都新宿区高田馬場4-3-12
アルク高田馬場4F
TEL：03-3365-0182
FAX：03-3360-6364
E-mail：office@atem.org
郵便振替：00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

May The Force Be With The New ATEM!

ATEM President **Makoto KURATA**
(Kyoto University of Foreign Studies)

ATEM 会長

倉田 誠 (京都外国語大学)



Ladies and Gentlemen,

Allow me to start off my last presidential greetings by apprising you that we have grown out of our old mold and embarked on the second chapter of ATEM. Needless to say, ATEM is not simply our

acronym and logotype any longer, but it is our official organizational name, which now stands for “The Association for Teaching English through Multimedia.” We will soon be finished with our homepage renovation, so we can showcase online what the purposes and objectives of the new ATEM are, and how meaningful it is to be a part of this unique organization.

I hope you remember that the above is the end result of a change which I pledged to develop when I was sworn in as President of ATEM five years ago. I suggested then that we ascend to a point where we begin enlarging our pedagogical parameters in order to attract more educators and researchers to our organization from a wider variety of academic fields, such as linguistics, literature, area studies, communication studies, and so forth. Now that our groundwork is almost done, we can step forward to make our organization further flourish by increasing our enrollment. Please positively publicize this good news to your colleagues as well as to all other interested people. Also fill them in on what a treasure trove of informative and innovative ideas the new ATEM is bound to become.

Aside from my brief description of where we stand, I would like to call your attention to what we can look forward with a great deal of anticipation to in the 2018

school year, on top of a few ATEM regional conferences. Firstly, I am pleased to remind you that we will be hosting the 24th National Convention at Kyoto University of Foreign Studies on Saturday, October 27th (See p.2). The 2018 pedagogical powwow is to take place under the theme of “Exploring Teaching English through Multimedia.” My successor and the other new directors are to be introduced at the general assembly, which will be immediately followed by an appealing array of academic speeches and symposia. Given at the end of the one-day conference is a special keynote speech by Professor Garr Reynolds (Kyoto University of Foreign Studies). Professor Reynolds, who is a highly acclaimed presentation specialist, will familiarize the attendees with the art of storytelling by giving them a number of surprising secrets and examples. I would like to encourage as many members of ours as possible to partake in this immensely interesting and informative meeting of the minds. Please be advised that you should make hotel reservations at your earliest convenience, as Kyoto is one of the most popular tourist attractions in Japan, and there may not be many decent hotel rooms available in the city unless you reserve them early enough. Secondly, held about a month prior to our own national convention is STEM’s 2018 international conference, the theme of which is “Contemporary Superheroes: EFL Teachers for multimedia literacies in educational settings.” Our Korean partner organization is pairing up this year with two other renowned Korean academic associations, which are KASEE (The Korea Association of Secondary English Education) and SETA (Secondary English Teacher’s Association). This collaborative international conference will be held at Konkuk University in Seoul from September 14 through September 16 (See p.5). Let us mingle with our Korean colleagues in the capital of South Korea!

ATEM friends, may I conclude my last greetings by thanking you from the bottom of my heart for what you have kindly done for me in the five years of my tenure as ATEM President? May the force be with the New ATEM!

第24回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会

The 24th ATEM (The Association for Teaching English through Multimedia) National Convention

開催日：平成30年10月27日(土) Date: Oct. 27th (Sat), 2018

会場：京都外国語大学1号館 Place: Kyoto University of Foreign Studies

テーマ：「映像メディア英語教育」の可能性を探る Theme: Exploring "Teaching English through Multimedia"

本年10月27日、ATEMは、「映像メディア英語教育学会」としての最初の全国大会を京都外国語大学にて開催いたします。今回の大会では、本学会英語名の一部であるmultimediaにちなんで、ベストセラー『プレゼンテーション Zen』の著者であり、プレゼン教育の第一人者であるガー・レイノルズ先生を講演者にお迎えします。この特別講演の他にも、京都外国語大学のクレイグ・スミス先生(コミュニティ・エンゲイジメント(CE)センター長)および藤倉なおこ先生による特別シンポジウム、会員による研究発表やポスターセッションが予定されています。皆さんも紅葉の美しい秋の京都で、有意義な一日を過ごしてみませんか。

※会員の著書を展示するコーナーも設けております。

■特別講演

How to Make "Zen Presentations" through Multimedia シンプルで力強いプレゼンの作り方

講師：Garr Reynolds 先生(京都外国語大学教授)



プレゼンを効果的なものにするには、余分な情報をできるだけそぎ落とし、本当に伝えるべきメッセージだけをシンプルに伝えることが大切です。この講演では、著名なプレゼン教育の第一人者に、「禅」の精神に通じるプレゼンの作り方を教えて頂きます。

【講師プロフィール】米オレゴン州出身。1989年に初来日して以来、20年以上日本に在住し、その文化や哲学を研究する。住友電気工業や米アップルの勤務を経て独立。プレゼンテーションの実施および指導における世界的な第一人者。スティーブ・ジョブズ流のプレゼンに日本文化「禅」を融合させた手法は、“世界で最もシンプル”なメソッドとして名高い。企業向けの研修やコンサルティングのほか、世界中の企業や大学に招かれて、セミナーを行う。著書『プレゼンテーション Zen』は世界20カ国で発売され、35万部以上のベストセラーに。

事前参加申込受付期限：10月10日(水)

ATEM ホームページ <http://www.atem.org> の「全国大会」のページよりお申し込みください。

事前申込者参加費：会員¥1,000 非会員¥2,000
(当日参加費：会員¥2,000 非会員¥3,000)

学生証提示で学生無料

【研究発表応募方法】

ATEM ホームページ <http://www.atem.org> の募集要項に従い、会員専用ページ(本号最終頁参照)よりお申し込みください。

※English presentations will be welcomed.

募集期間：6月6日(水)～7月7日(土)

応募資格：2018年度分会費を納入済のATEM会員

※会費納入の確認に数日を要しますので、早めにご納入ください。

プログラム

9:15	受付開始
10:00-10:10	開会式
10:15-10:45	STEM 特別発表
10:50-12:00	特別シンポジウム ※下記参照
(12:00-14:00)	ポスターセッション
12:05-12:25	総会(会員のみ)
13:00-13:27	発表1(5教室)
13:30-13:57	発表2(5教室)
14:00-14:27	発表3(5教室)
14:30-15:57	シンポジウムA, B, C, D
14:30-14:57	発表4(1教室)
15:00-15:27	発表5(1教室)
15:30-15:57	発表6(1教室)
16:05-17:20	特別講演 ※左記参照
17:20-17:25	閉会式
17:45-19:45	懇親会

※詳細は発表者決定後 ATEM ホームページへ掲載します。

■特別シンポジウム■

Teaching Communication through Visual Media

映像メディアを使ったコミュニケーション教育を考える

Craig Smith 先生(京都外国語大学 CE センター長)
藤倉なおこ 先生(京都外国語大学准教授)

コミュニケーションには様々な形があり、様々な人が関わります。

このシンポジウムでは、発表者がそれぞれタイプの違うコミュニケーションを採り上げ、映像メディアを使った学び方・教え方を提案します。



■支部だより■

[北海道支部]

◆北海道支部では現在、隔月で支部研究会を開催しています。メインは「シェア」というコーナーで、支部会員が持ちまわりで自身の教授法、教材を他会員と共有し、それについて質疑応答を行うものです。

◆前号では簡単に報告しましたが、昨年6月は第3回支部ワークショップを開催しました（於：小樽商科大学札幌サテライト）。講師は支部長が務め、参加者が洋画の特定のシーン（数十秒から数分程度）を利用した授業展開を考えました。それぞれが教育現場等において実際に使用することを想定したハンドアウトを即興で作成し互いに評価し合う方法をとりましたが、互いの視点から何をどのように料理するか、ターゲットグループが変わった時にはどこをどのように変更して使用可能か等について、活発な議論が行われました。

◆昨年9月16日（土）ソウル師範大学で開催されたSTEM全国大会では基調講演を、12月16日（日）麗澤大学東京研究所で行われた第8回東日本支部大会での招聘発表をさせていただき、いずれも支部長として多くの方と交流ができました。本年3月3日（土）大阪工業大学梅田校で行なわれた第15回西日本支部大会では支部交流発表をさせていただきました。

◆昨年度は全国大会の会場支部となっていたため支部



昨年の全国大会懇親会@小樽にて。
五本締めをしているところ

大会を行いませんでした（全国大会で多数の北海道支部員が発表しましたが）、今年度の支部大会は6月23日（土）に小樽商科大学札幌サテライトにて行うべく、準備を進めて

おります。皆様のご参加をお待ちしています。

（支部長：小林 敏彦）

[東日本支部]

◆東日本支部では、2018年3月25日（日）に、麗澤大学東京研究センター春季例会を開催しました。今回は3会員によるパネル・ディスカッションを企画しました。他4件の研究発表／授業実践報告があり、活発に意見交換が行われました。

プログラムは以下のとおりです。（敬称略）

パネル・ディスカッション：スプリング・ライアン（東北大学）、清澤香（国際基督教大学）、吉田雅之（早稲田大学）「映画英語教育におけるトップダウン・ボトムアップ手法の可能性—4技能の向上からクリティカル・シンキング、専門分野の講義まで—」



パネリスト（左からライアン先生、吉田先生、清澤先生）

研究発表①：小嶺智枝（明治大学）「英米児童文学を読む—児童文学教材と映像を通して—」

研究発表②：木下律子（創価大学大学院）「Harry Potter and the Deathly Hallows (2007)における死生観—映画と原作にみる二つの“Death”—」

研究発表③：鈴木政浩（西武文理大学）「PCフリーソフトを活用した映画教材開発の一例」

研究発表④：吉田雅之（早稲田大学）「逐次語ではない作文を目指した二カ国語ニュース利用」

（支部長：渡邊 信）

[中部支部]

◆中部支部では、2018年2月17日（土）に2017年度中部支部大会を開催しました。

当日は、映画『シャーロック・忌まわしき花嫁』を基に「二人のモリアーティ 「正典」から Sherlock」というタイトルで、藤田保健衛生大学の井土康仁先生が研究発表されました。文化的歴史的な多様な視点からの発表で、フロアからも活発な議論が出ました。その後は映画学習鑑賞会も行われました。



◆3月17日（土）には年度最後の運営委員会が開催され、

2018年度4月よりの新支部役員が決定しました。

支部長：杉浦恵美子（愛知県立大学）、副支部長：網野千代美（岐阜聖徳学園大学）、井土康仁（藤田保健衛生大学）、事務局長：塚越日出夫（株式会社フォーイン スクリーンプレイ事業部）

今後も支部活動発展のために尽力して参ります。

（支部長：杉浦 恵美子）

【西日本支部】

◆西日本支部では、第15回西日本支部大会を2018年3月3日（土）に大阪工業大学梅田キャンパスで開催しま



塩見佳代子先生（立命館大学）

した。講演では塩見佳代子先生（立命館大学）をお招きし、「TED Talks ができるまでのプロセスと英語教育への活用」と題してご講演いただきました。シンポジウムでは「合成音声（Text-to-Speech）・音声認識（Speech-to-Text）ソフトの英語教育への応用」と題して、東淳一先生（神戸学院大学）と中西のりこ先生（神戸学院大学）にその活用法をご提案いただきました。企画ワークショップでは、「動画作成を取り入れた英語授業～実践報告と動画編集デモ～」と題して、吉村征洋先生（摂南大学）、仁科恭徳先生（神戸学院大学）、桐村亮先生（立命館大学）の3人の先生方に普段の授業の取り組みを紹介していただきました。また、支部交流発表として、小林敏彦先生（北海道支部長、小樽商科大学）には、「映画の英語のAUTHENTICITYを検証する9つの視点—YouTubeとの比較—」と題してご発表いただきました。他に研究発表が4件、実践報告が3件、賛助会員発表が1件ありました。学会名の和名が「映像メディア英語教育学会」と改名する直前であったこともあり、メディアを活用した発表を意識することで広報戦略に努めたこと、また、研究発表の概要については査読制度を取り入れることでその一定のアカデミズムの統一性がとれたことなど、次世代および今後の新たなATEM活動の出発点となる意義深い支部大会でした。

（支部長：横山 仁視）

【九州支部】

◆本年より鹿児島女子短期大学の吉村が九州支部部長に就任いたしました。活発な支部活動を続けていけるよう努めて参ります。

◆昨年の支部大会は8月26日（土）に大分県立芸術文化短期大学で行われました。発表は「ミュージカル映画の活用法：映画『レ・ミゼラブル』を使った動機づけ」石田もとな先生（吉備国際大学）、『サウンド・オブ・ミュージック』と政治」村田希巳子先生（北九州市立大学）、「語句の多義性と映画の台詞利用の有用性について」松中完二先生（久留米工業大学）、「日本人英語講師による英語授業とWTC結果の実践報告」深津勇仁先生（慶応義塾大学大学院）、「映画Goofsを活用した授業外学習への動機づけ」吉村圭（鹿児島女子短期大学）の5件でした。倉田会長、真下事務局長、西日本支部長の横山先



生が駆けつけてくださいました。

◆今年度の九州支部大会は8月25日（土）、北九州市立大学での実施を計画しております。にぎやかな大会にしたいと、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

（支部長：吉村 圭）

【訃報】

皆さま

本学会の会員であり、東日本支部の功労者である、日野克己先生がご逝去されました。この場をお借りし日野先生のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の方々へお悔やみを申し上げたいと存じます。

合掌

会長 倉田 誠

Ladies and Gentlemen

I am deeply saddened to inform you that Professor Katsumi Hino, an important member of ours and a valuable contributor to the Higashi-Nihon chapter, passed away. Let us pray that his soul rest in peace, and express our sincere condolences to his bereaved family.

Best regards,
Makoto Kurata
ATEM President

■委員会だより■

【国際交流委員会】

第 22 回 STEM 国際大会 (TEEM 2018)

ATEM の姉妹学会である STEM (The Society for Teaching English through Media) の第 22 回国際大会が 2018 年 9 月 14 日 (金) ~16 日 (日) に、韓国ソウル市の建国大学校 (Konkuk University) で開催されます。今年度は STEM (The Society for Teaching English through Media)、KASEE (The Korea Association of Secondary English Education)、SETA (Secondary English Teacher's Association) の 3 団体による共同開催で、大会テーマは Contemporary Superheroes: EFL Teachers for multimedia literacies in educational settings です。ATEM からは全国の支部から総勢 14 組 20 名の先生方が発表される予定で、今回は STEM 会員との共同研究発表もあります。また SETA の共同開催により、中学校・高等学校の先生方も多く参加されると思います。一般会員の皆さまも、韓国の研究者との交流を広める良い機会ですので、どうぞご参加ください。(委員長: 井村 誠)

○TEEM2018 公式サイト



http://www.stemedia.co.kr/modules/catalogue/cg_view.html?cc=12&p=1&no=7

【会員管理委員会】

会員専用ページ (会員管理システム) について

4 月 1 日より学会名が変更になり心機一転の船出となりました。会員の皆様の中にも所属やメールアドレスが変更になった方が多いのではないのでしょうか。会員データを最新の状態に保つため、次の 2 点を確認くださるようお願いします。

○登録情報

お知らせの配信、紀要の送付などは会員システムの登録情報に基づいて行われますが、配信エラーや返還などのケースが少なからず確認されております。変更がある場合には、速やかに会員システムにログインの上、情報の更新を行ってください。

○会費納入状況

会員システムでは会費の納入状況をいつでも確認いただけます。ログインしますと図のように過去 5 年間の納入状況が表示されます。万が一、未納状況の年度がある場合には、

納入の手続きをお願い致します。なお、納入状況の反映には納入から 1 週間程

度のタイムラグが発生しますが、何卒ご容赦ください。当会の運営を支える大切な会費の情報を安全で正確に管理するため努力を重ねておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。(委員長: 新田 晴彦)

あなたの会費納入状況	
2018年度	未納
2017年度	納入済
2016年度	納入済
2015年度	納入済
2014年度	納入済

【ICT委員会】

本部ホームページのリニューアルについて

ICT 委員会では、2018 年 4 月 1 日付の学会名の変更に伴う本部ウェブサイトのリニューアルを準備いたしておりましたが、このたび無事に公開することができました。新サイトへの切り替え時には、一部の機能の停止などご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。今後もさらなる内容の充実を目指して参りますので、皆様のご意見、ご助言をお寄せいただきますようお願いいたします。（委員長：巳波 義典）

【ジャーナル編集委員会】

ATEM ジャーナル第 23 号について

今号には総数 11 編の論文が投稿されました。教育分野 5 編、言語 4 編、文化 1 編でした。今年度は、全国大会が 11 月に実施された関係もあってか、9 月の締め切りを見送った会員の方も少なくないと思います。小樽大会でのご発表原稿は是非次号にご投稿ください。

これら 11 本の投稿論文は 21 名の査読委員によって審査され、最終的に 8 本が掲載されることになりました。執筆、査読へのご協力を有り難う御座いました。

皆様ご存知のように我々は先の総会において、その研究対象をさらに広げるために学会名称の変更を決定しました。3 年前、研究分野を狭義の英語教育から広義の英語教育（英語教育、英語学、文化論、文学、コミュニケーション論、地域研究）にシフトしていますが、今回の名称でもこのことがさらに明確になるはずです。

論文の要件は(1)英語教育に言及する節が 1 つ以上ある；(2) (1)によらず全体に英語教育のキーワードが挿入されている；(3) 結論等に英語教育に関する言及がなされ、それに対して英語教育への応用に特化した注がつけられていることです。つまり「英語教育+視聴覚メディア=ATEM 論文」です。次号においても皆様からの玉稿をお待ちしています。（委員長：塚越 博史）

● A T E M 論文リンク集 ●

J-STAGE で閲覧が可能な、ATEM ジャーナル『映画英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記よりアクセスできます。

<http://atem.org/index.php/papers/papers>

【大会運営委員会】

第 24 回 ATEM 全国大会について

本年10月27日（土）、第24回ATEM全国大会が京都外国語大学1号館にて開催されます。特別講演者は、英語プレゼン教育の第一人者であるガー・レイノルズ先生です。この他にも、京都外国語大学のクレイグ・スミス先生および藤倉なおこ先生による特別シンポジウム、会員による研究発表やポスターセッションが予定されています。会場の運営は西日本支部の大会実行委員会（委員長：横山支部長）が中心となって担い、本部の大会運営委員会（委員長：藤枝）がサポートします。観光シーズンの京都での大会になりますが、盛会になりますよう各支部・会員の皆様のいっそうのご協力をお願い致します。（委員長：藤枝 善之）

全国大会の詳細は本部ホームページに掲載します。
<http://atem.org/index.php/conventions/24th>
 ※<http://atem.org> トップメニュー「全国大会」→「第 24 回 ATEM 全国大会」からアクセスできます。
 ※会員は全国大会の参加申し込みを本部ホームページ「会員専用ページ」から行ってください（本紙 P.8 参照）。

2018 年 10 月 27 日（土）開催

第 24 回 A T E M 全国大会会場



京都市右京区西院笠目町 6 Tel:075-322-6012

<http://www.kufs.ac.jp>

【広報委員会】

Newsletter デザイン更新について

いつも本紙への情報提供、ご協力いただいております皆様に、まずは心からお礼申し上げます。

本年 4 月 1 日より学会名称が変更されたことに伴い、本紙のレターヘッドも新ロゴをあしらった新しいデザインとなりました。見やすくわかりやすい紙面を委員一同いっそう工夫して参ります。

本紙は年 2 回、春と秋の発行で、No.28 よりカラー版で作成しております。バックナンバーは、掲載写真の画質が少し落ちますが、PDF 版を本部ホームページにてご覧いただけます。（委員長：松田 愛子）

■書籍紹介

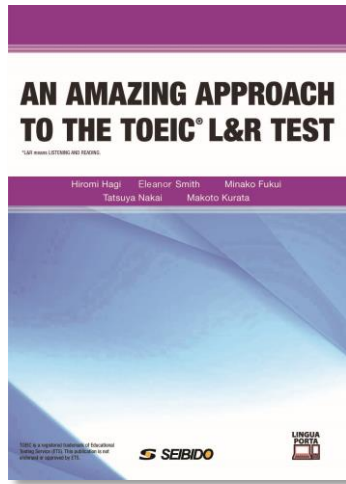
An Amazing Approach to the TOEIC L&R Test

(仮題)

コア表現と頻出単語で学ぶ
TOEIC L&R テスト (仮題)

菺寛美、Eleanor Smith、
福井美奈子、中井達也、
倉田誠 共著

(成美堂 2019)



このテキスト製作は京都・百万遍の交差点から始まりました。一昨年秋、京都大学で行われた ATEM 西日本支部大会でのことです。懇親会が終わり、先生方は次にどこに流れるのだろうかと考えていたところ、会長の倉田誠先生と目が合い、そこで立ち話を始めました。そして世間話からテキストのことへ話題が移ったところ、ちょうど共著者となる菺寛美先生が倉田先生の目に入り、3人で少しブレインストーミングをしませんか、とトントン拍子で企画の話がスタートしたのです。

いろいろなジャンルが話題に出ましたが、最終的に TOEIC 教材をやってみようという事になりました。ちょうどこの年の 5 月から出題形式が新形式になったため、弊社では新形式に対応したテキスト開発が急務でした。とは言え、TOEIC 教材は大学テキストのマーケットでは飽和状態と言われるくらい同業他社が出版

しています。何を特長にしようかと悩んで出した解答が「基礎を固める」でした。その基礎とは何かと言うと、『公式問題集』です。TOEIC L&R はご承知の通り、過去問題は非公開です。従って、唯一、公式に出版されている問題を攻略することがスコアアップの近道になるというのが著者の統一見解でした。この頃には共著者として、福井美奈子先生、中井達也先生、Eleanor Smith 先生にも加わっていただくことになります。

TOEIC のスコアアップはもちろん、他に何か学生に喜びを感じてもらえるものはないかと考えた時に出たのが語彙力と表現力の向上です。特に表現に関しては日常会話や映画・マスメディアをはじめ、TOEIC 以外でも十分役に立つものが多いため、TOEIC の頻出表現及び頻出語彙を独自の手法で統計学的に抽出し、テキスト化しようという運びになりました。例えば、必ず使われる頻出表現として、

be available (for purchase)、be subject to ~、out of stock 等々があり、それらが使われていない TOEIC L&R テストはありません。このような表現を Listening Section と Reading Section で各 40 表現を独自に抽出していただきました。この表現を「横断的コア表現」と呼び、このコア表現を「漆塗り」のごとく、何回も何回も学習者に提示することで定着させるアプローチを取っています。また、今回の分析で分かったことなのですがコア表現を含む多くの文が、TOEIC 設問の直接的正答箇所になっています。このことからコア表現を定着させることの重要性がわかりますし、TOEIC の test makers が談話内の情報価値の高低を注視していることを示しています。コア表現には単語中心の句の他に、Please note that ~、I'm calling about ~ や I'd like to draw your attention to ~ など頻出表現ですが、これらの表現のあとには情報価値の高い文や句が置かれるので、本テキストもそれを踏まえ趣意的に英文を作りました。

テキストの構成についてですが、TOEIC スコア 500~650 点を目指す学習者を対象としています。章立てには一工夫しています。TOEIC のパートを学習者の取り組みやすさ順に、Part 1、2、5 の章、Part 3、6 の章、Part 4、7



の章と大きく 3 つに分けました。Part を少なくすることは、集中し、たくさん問題をこなすことで問題パターンに慣れてもらう意図があります。この順番に 3 章サイクルで 1 クールとし、4 クールで完成となります。各章には Home Appliances、Restaurants、Job Hunting などいろいろなトピックを設けて

おり、一般の英語科目で使用できるようにしてあります。また、TOEIC 講座などの場合には Part 1、2、5 の章を 4 回分、その後、Part 3、6 の章を 4 回分、最後に Part 4、7 の章を 4 回分集中して授業することも可能です。先生方の授業科目に応じて組み立てることもできるのです。

テキストのみならずオンライン用の問題や「漆塗り」ポイントや次回の学習ポイント等を弊社リングポルタに搭載する予定にしており、対面授業と課外学習とを融合させることで学習の更なる定着も目標にしています。最後に「TOEIC と映画の台詞」という囲み記事も入れる予定であることを申し添えます。

10月27日(土)の第24回ATEM全国大会(京都外国語大学)にはテキストの完成品をご披露しますので、是非皆様の手にとってご覧いただければと思っております。

田村栄一 (成美堂)

■会員専用ページ（会員管理システム）

「会員専用ページ」は本部ホームページのトップ「会員」から「会員管理システム」へログインしご利用ください。

<http://atem.org>



会員管理システムでは、メニュー「個人のページ」「個人の会費納入状況」「大会情報」「紀要（ジャーナル）情報」から・個人情報の更新・会費納入状況の確認・全国大会の研究発表応募と参加申し込み・ジャーナルへの論文投稿が可能です。 ※不明点は本部事務局へお問合せください。

ATEM Clapper Board



- 2018年4月1日より当会の正式名称がATEMとなりました。英語名称は"The Association for Teaching English through Multimedia"、日本語名称は「映像メディア英語教育学会」です。
- 会費の振込先等は、旧学会名「映画英語教育学会事務局」を継続しております。本年度の払い込み用紙はジャーナルに同封発送されております。

- 年会費（4/1～翌3/31）5000円の納入期限は、原則6/30とさせていただきます。郵便局備え付けの振込用紙（青色）をご利用の場合は、下記口座へ納入ください。個別の納入状況については、本部ホームページ内にある「会員情報システム」（アクセス法はこの頁の上部参照）で確認が可能です。2年以上滞納された場合には、会員資格を失いますのでご注意願います。

ゆうちょ銀行：00820-3-1477
 口座名義：映画英語教育学会事務局
 ※通信欄に「〇〇年度年会費」と明記ください。

事務局 office@atem.org

<賛助会員一覧> (50音順) 2018.4.1現在

株式会社朝日出版社
 株式会社アルビス
 株式会社英宝社
 株式会社桐原書店
 株式会社金星堂
 国際トラベル京都
 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
 松柏社
 株式会社 成美堂
 センゲージラーニング株式会社
 チエル株式会社
 株式会社トライアログ・エデュケーション
 広島工業大学学務部 MM 準備室

～編集後記～

- 九州支部担当広報委員が交代し、吉備国際大学の石田もとな先生が着任されました。鶴田知嘉香先生にはこれまでのご協力ありがとうございました。
- 次号（No.35、第24回全国大会特集）は、11月の発行を目指しております。

【広報委員会】 2018.4.1現在

委員長：松田 愛子（北海道）

委員：田口 雅子（北海道） 杉浦 綾子（東日本）
 井土 康仁（中部） 衛藤 圭一（西日本）
 石田 もとな（九州）

©ATEM All rights reserved.

